



第67号

●主な記事

平成27年度行事のご案内
支部・同期会・OB会だより
母校近況・寄贈図書

平成27年6月10日発行
一般社団法人 長野高等学校金鶴会
事務局 ☎(026)235-3822
発行人 鶩澤 正一
編集人 桃林 聖一

URL
<http://www.kinshi.org>
E-Mail
dousoukai@kinshi.org

長野高校教育基金創設にご協力を

会長 鶩澤正一

長野市の玄関口である長野駅は装いを新たにし、北陸新幹線も金沢まで延伸しました。4月から始まった善光寺御開帳も大変な賑わいを見せておりましたが、会員の皆様にはますます健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、我らが母校の長野高校におきましては、昨年度より文科省のSGH（スーパーグローバルハイスクール）に指定されまして、世界に通ずる人材を輩出するべく頑張っております。この事業で昨年度は1,600万円の事業費がつけられ、3月には40名の生徒達が米国のボストン・ニューヨークを訪れ、ハーバード大学の学生や現地の高校生と交流を深め、また国連日本代表本部では職員との交流により大変有意義な時を過ごして来たと聞いております。また、今年は2年生全体での台湾研修旅行を予定しており、さらには、長野県という地域が誇るさまざまな産業・医療・文化などを世界に向けて発信していくことに重点を置き、ローカルとグローバルを繋いでいく活動を展開することです。

ところが、今年度は指定校が拡大されたこともあり、文科省予算は昨年に比べて大幅に減らされ、1,000万円以下になるようです。しかも、使い途に制限があり、学校としては資金面でかなり苦しんでいるようです。そこで、同窓会としましては長野高等学校教育基金を立ち上げて、広く会員の皆様に寄付をお願いしたいと考えております。会費納入でご協力を仰いでいるところへ重ねてのお願いで恐縮ですが、郵便局の振込用紙を同封いたしましたのでご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



SGH 小布施サマースクールに参加した大学生との交流会

①同窓会年会費 2,000円

4連の振込用紙をお使いください。

②長野高等学校教育基金 1口1,000円 何口でも

振込用紙に金額・住所・氏名・回期・口数をご記入ください。

(高5回以上の会費免除学年にも同封しております)

4年後の平成31年には、長野高校は創立120周年を迎えます。その際の母校への教育助成事業の一環として長野高等学校教育基金を位置づけ、その第一弾として、募金目標500万円を予定しております。おもな使い途としては、生徒が情報発信するためのパソコン（MacBook）の購入などICT（情報・通信）環境の整備に充てる予定です。

また、企業・法人の皆様には、今後、個別に学校・PTA・同窓会の三者で改めてお願ひにあがりたいと考えております。

・母校のために個人で大口の教育基金を立ち上げても良いと考えてくださる方がいらっしゃいましたら、冠名をつけ、使い途をご要望に添った形で実施することも検討しております。ご協力いただける方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡をお待ちしております。

・現在何らかの国際機関（国連や国境なき医師団のようなNPO法人など）で活躍されている長野高校同窓生をご存じでしたら、ご紹介ください。長野高校ではSGHの関連で生徒向けに講演などを依頼したいようです。自薦でもかまいませんので、同窓会までメール等でご連絡ください。

平成27年度 同窓会総会のご案内

期 日 平成27年6月27日(土)

会 場 ホテル国際21

総 会 午後2時～ 藤の間

講 演 会 午後3時～ 藤の間

講師 宮内庁侍従・侍従職務主管
池田憲治 氏(高32回)

懇親会 午後4時30分～ 芙蓉の間

会 費 5,000円 当日受付でいただきます。

* 今年度の当番は、高32回・高44回・高56回の方々です。

出席される方は6月23日(火)までに事務局へお知らせください。



象山先生に見つめられて

学校長 大井 基成

本年4月に着任いたしました。よろしくお願いいたします。本校「第何回卒」と言えればいいのですが、OBでもなく、また、職員として勤務したこともなく、長野高校の場所すらも不案内のままでの赴任となりました。1ヵ月が過ぎたばかりですが、その短い期間にも拘らず、同窓生各位の母校への熱く温かな想いを既に何回も感じております。

今年は3月下旬の暖かさのおかげで、桜の花に迎えられての入学式となりました。全日制281名、定時制18名の新入学生を加え、全校生徒904名で平成27年度がスタートしております。

バタバタと日々過ごしていますが、校長室のちょうど私の向かい側の壁に、河野通勢画伯作の佐久間象山先生の肖像画が掲げられています。生徒昇降口にもありますが、そちらは複製だということです。旧制長野中学第14回卒、本校OBの通勢の代表作の一つで、卒業5年後（1919年）の作品です。象山先生、眼光鋭くこちらを見つめているので、どうも落ち着いて仕事ができなくて困っています。ふと、手に何か字が書かれているものを持っていることに気づき、近寄って見てみました。「匡廓相依完闔模」と書かれていました。語句をパソコンで検索したところ、象山の門下生に「米百俵」の逸話で有名な長岡藩の小林虎三郎がありますが、その父に送った手紙の一節であることが分かりました。象山は人々に対して、東洋の良さはもちろん、西洋の文化についても、それを評価し学びなさいと説いています。パート（匡廓）が相い依りあって丸い全体（完闔模）が完成される、というその考えは、尊王攘夷が声高に呼ばれている中にあって、広い視野

で的確に世界を捉えていたことの証左だと思います。

本校は昨年度SGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定を文科省より受けました。グローバルリーダーの育成を目的としたこの事業により、どちらかと言えば受け身だった生徒に対して、主体性をどんどん發揮させるような取り組みを進めています。思えば、象山先生、時代の制約はあったとはいえ、まさしく当時のグローバルリーダーそのものであったと気づかれます。

同窓生各位におかれましては、母校に対して、引き続き変わらぬご支援をいただくようお願い申し上げますとともに、お気軽にお立ち寄りいただき、よろしければ校長室のその絵をご覧いただければと存じます。

ようやくこの原稿を書き終えて顔を上げたところ、やはり象山先生がこちらを見ていました。そして「お主、よくも私の考えを都合よく解釈してくれたな、けしからん！」と叱られたような気がしました。



母校近況

平成26年度金鶴賞贈呈

長野高校クラブ活動近況

長野高校金鶴会では、同窓生の皆様からいただいた会費より総額40万円の金鶴賞を活躍したクラブ・個人に贈呈しています。
(以下、北信越・東海・全国大会の記録のみ記載しました)

1. 金鶴優秀賞

・放送部 10万円

- 〈NHK杯全国高校放送コンテスト〉
- テレビドキュメント部門 準決勝進出
- 創作ラジオドラマ部門 優良賞
- 〈全国高等学校総合文化祭〉
- ビデオメッセージ部門 審査員特別賞

2. 金鶴優良賞

・陸上部 4万円

- 〈総体北信越〉
- 男子200m 5位、400m 2位、女子7種競技2位

〈インターハイ〉

男子400m 7位入賞、200m予選敗退、女子混成競技19位

〈新人北信越〉

男子5000mW 5位、女子1500m 2位、3000m 2位

・弓道部 4万円

〈総体北信越〉

女子団体決勝トーナメント進出

・吹奏楽部 4万円

〈東海吹奏楽コンクール〉 銅賞

〈東海アンサンブルコンテスト〉

サクソフォン四重奏銀賞

- ・かるた同好会 4万円
〈全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会〉
団体2回戦出場
〈北信越高等学校かるた選手権大会〉
長野県Aチーム3位
- ・新聞部 3万円
〈全国高校新聞年間紙面審査賞〉
優良賞(8年連続入賞)
〈全国高等学校総合文化祭茨城大会〉
新聞部門出場、来年度出場権獲得
- ・文芸班 2万円
〈俳句甲子園北信越〉 1位
〈俳句甲子園〉 予選リーグ敗退
- ・水泳班 2万円
〈総体北信越〉
男子400m自由形予選13位、1500m自由形タイム決勝10位、200m背泳ぎ予選18位、400mリレー予選17位、800mリレー予選17位
- ・囲碁・将棋班 2万円
〈全国高等学校総合文化祭〉
囲碁部門 長野県チームとして1名参加

- 〈北信越地区高校囲碁大会〉
男子個人6位、女子個人5位
- ・羽球班 2万円
・定時制バドミントン 1万円

3. 金鶴奨励賞

- ・書道班 1万円
・剣道班 1万円

4. 金鶴特別賞

個人を対象に17名の生徒に賞状と記念品を贈りました。



● 伝統を受け継ぐ「学校の応援団」－新聞部－

顧問 仁科利明

新聞部は、「長高新聞」を年8回発行しています。1948年の創刊以来 630号の発行号数は全国一を誇り、一般紙と同じブランケット版の高校新聞は絶滅危惧種的存在です。

本紙は生徒会活動や校内行事を詳細に伝えるとともに、社会問題から地域の話題なども取り上げています。最近では、文部科学省指定のSGH(スーパーグローバルハイスクール)の連載記事のほか、長野県北部地震や北陸新幹線金沢開業、大河ドラマ真田丸などを特集しました。辛口の部説や時事ネタの金鶴調、年1回の長高珍聞も健在です。季節の俳句コーナー

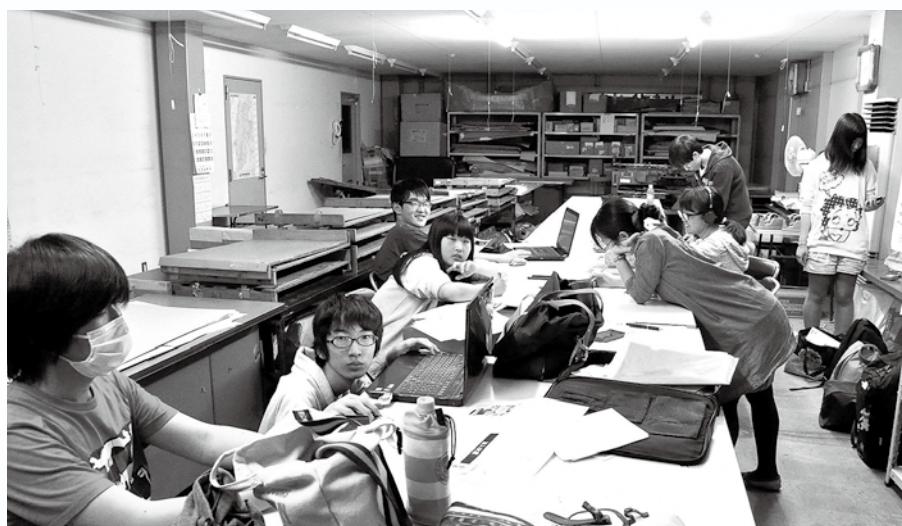
も新設しました。昨年度からは速報新聞「金鶴」を発行し、学校行事をよりタイムリーに伝えています。特に入学式や卒業式の速報は好評でした。

全国高校新聞年間紙面審査賞では8年連続で入賞し、全国高総文祭の出場権を獲得。全国の新聞部員たちと交流を深め、互いに刺激し合い新聞制作技術を高めています。長野県高校総文祭では県内他校の部員たちと協力し、文化系クラブ各部門の発表や大会を取材した速報新聞を制作しています。また、「信濃毎日新聞」にも総合文化祭の特集紙面や高校生記者の

コーナーに記事を掲載しています。

かつて部員2名という存亡の危機もあったようですが、5月現在の部員は20名。兼部の生徒が多く全員が揃うことはなかなか難しいですが、部室に集まって賑やかに、そして活発に新聞制作の活動を続けています。

新聞部は生徒会会則により、長高生の生活向上に寄与する機関として生徒会執行部から独立した位置付けです。時には生徒会活動のあり方や学校の教育姿勢などを厳しく論じることもありますが、「学校の応援団」として、より良い学校になるよう働きかけを行っています。



最新号編集最終段階の現場風景（西沢印刷にて）

● 排球班の活動報告

顧問 中澤才幸

排球班は現在3年生9人、2年生5人、そして新たに1年生8人を加えて、22人の班員で活動しております。班員数は北信地区の中でも多いほうになります。班員の多くは中学校での県大会出場経験もなく、まったく初めてバレーをする者も毎年数人おります。そんな中で排球班が大切にしていることは、



班活を通して人間的な成長ができます。「試合を通じて勝った喜び、負けた悔しさを実感することで、人の喜び、悲しさを自分のことのように感じとれる人間、そして何よりも、自分に負けないタフな心をつくることです」

排球班の大会成績は北信大会ベスト4、県大会ベスト16がここ数年間の結果になります。決して威張れる結果ではありません。しかし大会の結果だけでなく、生徒が見せる日々の変化は上手くなろう、成長しようと、もがきながら前に向かう姿です。

排球班は練習メニューを全て顧問が決めて指導するのではなく、多くはキャプテンを中心に生徒たちが考え活動しています。なかなか結果が出てくるまでには時間がかかりますが、待つことも大切な練習法の一部だと考えております。そんな点を保護者の皆様にもご理解いただき、嬉しく思っております。加えて生徒の活動を先輩達（三星会OB会）も温かく見守っていただいている、毎年物心両面での激励やご指導も本当にありがたいことだと生徒共々心より感謝しております。

これからも長野高校排球班が三星会の伝統を引き継ぎ、大会でも活躍できるように頑張ることをお約束し、活動報告といたします。

● 平成26年度米国リーダー研修旅行報告

SGH事業推進係 白鳥美香

今年、3月13日（金）から21日（土）までの7泊9日で平成26年度米国リーダー研修旅行が生徒40名、引率3名で実施されました。金鶴会の厚いご支援に支えられて続いている海外研修旅行ですが、昨年度、長野高校がSGH（スーパーグローバルハイスクール）に指定されたのに伴いSGH事業の一環となりました。ハーバード大学での研修で生徒自身がプレゼンテーション（長野の紹介や課題研究発表など）を行うなど研修部分を強化するとともに、現地高校との交流も導入して「リーダー研修」にふさわしいものにバージョンアップしました。

生徒達はそれぞれ旅行中に達成したい目標を立て、また、何らかの係としての責任を負っての参加でした。参加希望者が多

く選抜となったこともあるってか、どの生徒も真摯に研修を重ねたことが『旅行記』からもうかがわれます。この成果は5月23日（土）の公開授業で、1・2年生全員と来校者の方々に発表しました。

以下、生徒の感想を抜粋します。

◆Millburn High Schoolで（授業見学後）ディベート部の生徒と交流しました。彼らのディベートには圧倒され、聞き取れないほどの速さの英語で意見を堂々と読み上げていく様子には怖さすら覚えました。このような人たちと将来話し合うには常に自分の意見を持つことが大切だと思いました。

アメリカ研修に参加して、私は、日本の中だけの価値観や雰囲気に浸っていることへ危機感を覚えました。グローバル化することは、今回会った方々のように、自分の意見をしっかりと持ってそれをどんどん主張してくる人々と、面と向き合って話し合う場面が出てくるということです。そのような時に、日本の思考で、まわりの人と合わせればいいやという考えでいると、自分に不利な結果になることは確かです。そうならないために、これから、SGHなどを通して「グローバル人材に求められる力」を付けていきたいと思います。



支部・同期会・OB会だより



高9回 北ラス会

私たち北ラス会は毎年2回東京と長野で開催している。今年の長野は11月11日(火)、ホテルメトロポリタン長野で開催、東京等県外からの16名を含め48名が出席した。

受付で喜寿を記念して北沢栄一郎君特製の記名入り陶器「皿」を贈った。会は今年亡くなった会員4名の黙祷で始まり、次いで北沢幹事長の挨拶、母校の近況報告、東京北ラス会を代表して小粥さんの挨拶、そして毎年山口県から参加している野口貞夫君の36回生作製の金鶴缶ビールによる乾杯で宴は始まった。まず、毎年いただいている藤井一章君からの銘酒西之門で気分リラックス、お互いの近況を語り、健康について語り、また友達の消息を語り、和氣あいあい楽しい120分を過ごした。

最後は次期幹事長中村晴雄君の挨拶、そして校歌斎唱で終了した。

なお、東京北ラス会は5月8日(木)KKRホテル東京で行われ、長野からの参加12名を含め66名の参加で盛会でした。

(北沢栄一郎)

議事では会則の確認を行った後、役員の改選が行われ、次とおり選出された。

- 会長 徳永 幸信 (36年卒)
- 副会長 倉嶋 茂宏 (52年卒)
- 顧問 浦野 和雄 (27年卒)
- 顧問 増田 文義 (32年卒)
- 幹事 草間 実 (H1年卒)

その後、浦野和雄顧問(27年卒)の乾杯で祝宴が始まった。

前回から3年ぶりの開催ではあったが、料理に舌鼓を、美酒に杯を重ね、年齢は違うものの同じ郵便局等の仕事に携わった(携わっている)者同士、色々な話に花を咲かせ、時間が経つのも忘れ会員相互の懇親を深めた。

宴だけなわの中、元応援団の徳永幸信会長(36年卒)の指揮のもと、出席者全員が高校時代に戻ったかのように「南下軍」や「山また山」を大合唱した。

続いて、増田文義顧問(32年卒)から昭和31年6月21日に第1回の総会を開催したときのエピソードなどが発表され、その後、藻谷明氏(27年卒)による万歳で総会を閉じた。

(52年卒 倉嶋茂宏)

信越郵政金鶴会総会

平成26年度の「信越郵政金鶴会総会」が、平成26年12月3日(水)午後7時から、メルパルク長野において12名の会員が参集して開催された。

同会は、長野中・長野高校の卒業生で、信越の日本郵政グループ各社に勤務する現役と、同社及び旧信越郵政局管内の関係各機関を退職したOBで組織している同窓会で、会員相互の親睦を深めるとともに、母校及び郵政事業の発展に寄与することを目的としている。

まず、山腰建美会長(34年卒)から挨拶があり、母校長野高校や同窓会の現況の紹介があり、また、郵政事業の発展を祈念するとともに、久しぶりの開催ではあるが会員相互の懇親を深めてほしい旨の発言があった。続いて徳永幸信副会長(36年卒)が、母校同窓会から寄せられたメッセージを披露した。



東京長高金鶴会総会

平成26年12月13日(土)、東京長高金鶴会の年次総会が銀座のコートヤード・マリオット銀座東武ホテルで開催されました。今年も約100名の会員が参加され、長野からも来賓として学校長の堀金達郎先生、金鶴会会长の鷲澤正一様、金鶴会事務局長の桃林聖一様にご出席いただきました。

毎回の楽しみであり、知識と教養の蓄積となる東京長高会メンバーによる講演会。今回は町田英明氏(高30回)の「現代日本木版画」と幡野保裕氏(高15回)の「昨今のクルーズ事情とクルーズの魅力」の2つのテーマで行われました。

町田氏は科学者として実業で活躍されている一方で大学在学中から木版画の制作を始められ、日本国内のみならず、海外の版画展にも出品し、様々な賞を受賞されています。プロの版画家としての技術や版画会の歴史について興味深いお話をいただきました。

幡野氏は日本郵船株式会社において、クルーズ船「飛鳥」の船長として長年クルーズに関わり、飛鳥乗客で構成されるアスカラブの会長を務めておられます。「飛鳥」で行くクルーズライフについて、何度も世界一周をした経験談を豊かに語っていました。動くホテルで廻る旅の魅力は、いつか時間を作て体験してみたい気持ちになりました。

毎度のことながら、長野高校の多彩なOBの方たちの分野の大さと高さには誇りを感じます。

講演会の後、総会で一年間の東京長高会の活動報告が行われました。東京長高会では12月の総会に加えて「春の講演会」「秋の芸術鑑賞会」と活発な活動を在京会員と共にやっております。懇親会では金鶴缶ビールを片手に盛り上がったことはいうまでもありません。

(高30回 山根裕子)



任の先生方にもご出席いただき、111名の同期が一堂に会しました。この同窓会の企画・運営は、デジタル世代らしく、専用ウェブサイトを立ち上げ出欠管理から当日に撮影した写真の共有までを一貫してウェブ上で行ったことがひとつの特徴でございます。

同窓会は、当時を振り返るウェルカムショートムービーから始まり、高36回生のご発案で実現した金鶴缶ビールによる盛大な乾杯で幕を開けました。2時間半という限られた時間ではありましたが、久々に会う旧友と大いに語り合い良い刺激を与えることができたほか、各々の分野で活躍し始めた近況を担任の先生方にご報告することができました。最後には、全員で校歌「山また山」を斉唱し、再会を誓い合って解散となりました。

卒業10周年記念同窓会の開催は、これまでの金鶴会の活動においても珍しい試みでしたが、是非、後輩達にも10年の節目での開催をお薦めしたいと考えております。この同窓会の開催にあたり、鷲澤会長、桃林事務局長をはじめとする同窓会事務局の皆様、各クラス幹事の方々には大変多くのご指導やご協力をいただきました。ご多忙の中、格別のご高配をいただきましたことをここに改めて深く御礼申し上げます。

(代表幹事 黒石秀一)

高57回 卒業10周年記念同窓会

去る1月2日(金)、長野市のホテル国際21において我々高57回生の卒業10周年記念同窓会が開催されました。当日は当時の担



長野高校剣道班OB新年会



恒例の長野高校剣道班OB新年会が今年も「レストランやま」で1月2日(金)に開催され、今回もシニアの方々と若手の合同で盛大に行われました。

今回案内をお送りした中で、13回生の坂西さん、小出さんのお二人がお亡くなりになられており、哀悼の意を表しますとともに、お二人のお宅に会より善光寺さんの線香を送らせていただきました。

また今回は14回生の小島さんが真剣の居合い刀を持参され、皆に披露されました。

なお記念撮影で皆が持っているのは、昨年販売になった「金鶴缶ビール」です。また長野高校のタペストリーは「日新鐘」に掲載されていた16回生の寄贈されたもので、剣道班OB新年会のために同窓会よりお借りしてきました。下部に旧校舎の写真があるのですが写っておらず残念です。

(剣道班OB会会长 高20回 青木茂人)

高12回～35年以上続く～新年会

平成27年1月12日(月・成人の日)、恒例の関東在住者を中心とした新年会が東京・表参道「N H K青山荘」で開催されました。

この新年会は、443名の卒業生が昭和35年母校を巣立ち、それぞれの人生を送る中、あの純粹で夢多き時代と共に過ごした仲間に会いたいとの思いが募り、昭和55年頃に武村宏一郎、松林詔八(故人)、三森正一君ら数人で声を掛けあい、自然発生的に



在京組を中心として、年に数回の「ゴルフ会」と併せてスタートしました。

特にリタイア後、年々参加者が増え、今日まで三十数年間、年頭の恒行事として続いております。関東中心と言ひながら、例年地元長野はもとより北は仙台、西は名古屋・大阪からも仲間が参加し、当初は仕事や職種の垣根を越えた情報や近況交換の話題、昨今は子供や孫達の話を交え、毎回大いに盛り上がっております。

この会の特徴は、毎回前半30分程はセレモニーで、物故者を偲び黙祷を捧げた後、国内外の諸分野で活躍・経験を積んだ仲間から面白く、また感銘深い「ミニ卓話」をしてもらい、その後宴會となることです。

今回も54名の仲間と奥様方8名の計62名参加で、特に今年は卒業55周年の節目の年でもあり、急遽地元から会津三郎君も駆けつけ乾杯の音頭を取ってくれるなど、色々な趣向と併せ一段と旧交を温め楽しい集いとなりました。

古希を過ぎて以降「会える時に会っておこう」の合言葉の下、来年も1月11日(月・成人の日)の開催が決定しております。

“来たれ！集おう12回生!!”

(現・勝手幹事団 武村宏一郎・花岡郁安・樋熊明・山田作衛・轟貞幸)

高13回 東京長高36会新年会 開催

高校13回生、東京36会の新年会は、例年1月第3金曜日を設定、今年は1月16日、竹橋のKKRホテル東京で開催された。仕事現役組の減少と長野からの参加者に日帰りの便宜を考慮して、例年より早く16時に開催の新機軸のゆえか、長野からは15名の参加を得てまずまずの評価をえたか?

総数64名の参加のもと、安達堯昭君の司会で進行。乾杯に先立ち医学博士、佐藤禎二君より「2025年問題と健康管理」と題して、2025年には75歳以上が人口の25%になるので高齢者の一員として健康管理に食生活と運動の効用に加え“しっかり”遊ぶことが重要と提言あり。彼の専門の心臓の問題では、高齢者には心房細動から脳梗塞に至るケースが目立つので、不調があった場合には3時間以内に病院に行けばまず助かるとの貴重な助言でした。



関西からただ一人参加の高坂昌利君の乾杯発声後、懇親・歓談の時間を過ごし、丸山巧君の詩吟「鞭声蕭々」、在京7組有志の“禎二アンドブラザーズ”による「あゝそれなのに」と佐藤禎二君と久保博司君による「お富さん」の余興が会場を盛り上げた。

長野からの参加者を代表して青木輝政君の挨拶では、今年は善光寺御開帳の年であり、長野市のにぎわいに東京から多数来て欲しいとの要請。次回幹事の8組の面々の紹介後は、例年の五明則保君のエールのもと元気に校歌斉唱、町田隆実君の手縫めでお開きとなった。

二次会は、同じ会場で黒岩和夫君の司会で30名が残り、更にぎやかに新年を楽しんだ。

集合写真は、いつもの記録係、深瀬宏司君撮影です。

(7組幹事 岡部 宏)

松本金鶴会

「第1回松本金鶴会」を2015年2月4日(水)に松本市のファイブホルン松本パルコ店で開催しました。参加者は高11回から高59回まであわせて30名です。

開会に当たり、市民タイムス代表取締役社長で、松本金鶴会の新保力会長(高11回)から挨拶をいただき、続いて五千尺代表取締役会長で、松本金鶴会の藤澤繁雄副会長(高11回)の音頭で乾杯しました。

心のこもったおいしい料理とお酒を味わいながら歓談しまし



たが、非常に楽しく盛り上がり、時間があつという間に過ぎていきました。参加者の自己紹介では高校時代の懐かしい思い出が語られたり、現在の生活や仕事についての紹介があつたりして、それぞれの立場での活躍の様子が伝わりました。

さらに、八十二銀行常務取締役松本営業部長で、松本金鶴会の太田英行幹事長(高26回)から御礼とご報告をいただき、日本広告代表取締役社長で、松本金鶴会の池田紀夫副会長(高11回)から中締めの挨拶をいただきました。

参加者がお互いに懇親を深め、有意義な時間を過ごすことができました。第2回はさらに大勢の皆様をお誘いし、夏ごろに暑気払いとして開催できれば、と考えています。

(高31回 義家竜彦)

近畿長高金鶴会 新年会開かれる

平成27年2月21日(土)、場所は大阪の北の中心梅田の韓国料理アリラン亭で、午後5時より開催される。総勢38名。小林会長の挨拶、乾杯、初参加者の近況報告、次いで参加者の近況、と続く。

参加者大いに飲み、食べ、語り、お互いの健康と健闘を称え、最後は円陣を組み校歌「山また山」を合唱し、散会となった。

思えば、校歌のとおり私たちの故郷は四方山に囲まれ、緑豊かな土地、美しい木々が林立し、目に染みる草木が四季を通じて咲き誇る。ちょっと走れば、あちこちに名湯があり、くつろぐことができる。昨年11月には、県北部で震度6弱の地震があり、ひやりとした。参加者のの中には、やっと室内だけだけれど片づけが終わったという人もいる。

初参加は、高9回の渡辺幹夫さん、高19回の百瀬孝さん。渡辺さんは、長年俳句をたしなみ、最近はコーラスとゴルフに余念がないとのこと。心身の健康十分と見受けられる。

百瀬さんは、ジムで体を鍛え、お城巡りの歴史深報告の講座を受講と心身及び頭も鍛えておられる。

各テーブルでは三々五々話が盛り上がる。「故郷の実家のおもりに時々帰って、風を入れ替えている人」、「故郷の墓をどうしたもの



か、移転するのがいいのか、今そのまま守っていけばいいのか?」、「相続が完了した人」、「健康のためゴルフと歴史発見をかね、奈良の寺院を回っている」、「70歳、とうとう年金暮らし。ここからの生きがい、健康管理を考えている。今からがまた新たな人生」、「裁判所の所長を退官、弁護士へ。また京大大学院教授として、もうひと仕事」、「元気にやっているけれど、よる年波、寒さが一段と応える」などなど2時間の宴会が終わる。

3月にはハイキング会がある、と今後の予定が紹介された。皆さん、それぞれの人生を謳歌していますね。元気な先輩を見ていると我々も元気に生きたいと思う。いい手本がここに来ると言べる。

(高23回 野池 徹)

高15回 関東地区同期会

北陸新幹線の長野一金沢間が開業した3月14日(土)、高校15回生関東地区同期会が東京・内幸町のシーボニア・メンズクラブで開催された。音楽大学として知られる上野学園大から招いた女性奏者によるフルートとピアノの迎賓演奏が流れる中、40名の出席者が次々と参集し、渋沢研一君の挨拶で開会した。昨年12月に鬼籍に入った丸山正浩君への黙祷、6組・下平和範君(故人)らの山岳班OB隊によるロッキー山脈・アルバータ峰登攀を素材とした中学の道徳副読本『友好のピッケル』についての紹介があった後、長野から参加した徳武光貴君発声の乾杯で硬軟交



えた歓談が和やかに始まった。

妙齢のお二人が紡ぐミニコンサートは、その伴奏付きでの「信濃の国」齊唱も挟んで大好評、相次ぐアンコールの声に本校先輩の作曲家・草川信氏(長中12回)の唱歌「夕焼け小焼け」が演奏されるという一幕もあり、会場は大いに盛り上がった。

宴たけなわを迎えたところで、各出席者からこの1年間のあれこれにつ

いて近況報告が行われた。いまも現役で働く人、趣味や健康づくりに励む人、晴耕雨読の日々を送る人、自身や家族の病患でそれなりに難儀している人など様々で、古希を迎えた仲間たちのいまが一様ではないことを皆が実感するひとときとなった。

時間を忘れさせる歓談はなお楽しく続いたが、締めとして佐々木彌君指揮により「山また山」と「南下軍」を高らかな雄叫びと共に歌った後、次の幹事クラス・杉崎文男君から力強い決意表明があり、来年3月下旬の再会を約して散会した。(6組 宮澤福弘)

長野県庁金鶴会総会

平成26年度の総会は、3月16日(月)、原山隆一会長(高28回)のもと企画振興部が幹事を務め、県庁近くのホテルで開催されました。来賓として堀金達郎校長先生(当時)をお招きし、約90人が出席しました。

総会では、決算・予算の承認などの議事、母校への寄付金贈呈に続き、堀金校長先生から母校の様子を伺いました。俳句甲子園への出場をはじめ文化系の班が特に活躍していること、スーパーグローバルハイスクールの指定を受け、地元の強みを知った上でグローバルな視野を持てるように取り組んでいることなどをお話しいただきました。高校時代に熱心に勉強しなかった身としては、肩身が狭くもあり、現役諸君が頼もしくも感じました。

懇親会では、高62回をはじめ若い世代が積極的に出席してくれました。私自身が県庁勤務になった頃は敷居が高いイメージがありましたが、現在は管理職から若手まで楽しく語る場として、府内の異分野・世代間交流に一役買っています。

締めは、応援団OBの柿崎茂君(高49回)の指揮のもと、「山また山」を声高らかに歌い、御退職となる堀金校長先生にエールを献じました。往時の応援練習を思い出し、歌詞と動作を再確認しました。

現在、「地方創生」が全国的な政



策課題となっており、長野県でも総合戦略の策定に取り掛かっています。個性を活かして地域の活力を高める施策を構築するため、同窓の皆様の御協力をお願いいたします。

(高38回 小池広益)

長野中学・高校野球部在京OB会

恒例の長野中・長野高野球部在京OB会は4月11日(土)、葉桜の影も濃くなってきた東京駅丸の内北口、ポールスターで開かれました。

この会は、戦前から活動を中断されていた野球部が、昭和21年に復活した当初から活躍した人達を含め、故・廣岡信三先生(長中26回)が指導に当たられるようになった初期の人たちが、戦後野球部のルーツを語り継ごうと集まったものです。

今年の出席者は小林潤二・湯原務・菊地(旧姓倉石)哲郎(長中48回)、戸井田泰・福島敏寛・宮川淳二(高2回)、真木貞治(高3回)、町田行彦・宮崎忠幸(高4回)、高原啓吉(高5回)、廣岡男也・依田貴善(高7回)、塩入章男・塚田清文・中牧則夫・金子徹男(高8回)。今回呼びかけた22人中、16人が顔を見せる盛況ぶりで、戸井田、福島、廣岡の三氏が長野から駆けつけてくれました。

塚田幹事が開会を宣言。昨年来、物故された宇梶猛仁(長中48回)、岡澤清人(高2回)、松橋慶喜(高4回)、石坂康(高5回)、四氏の靈に黙祷を捧げました。遠来の戸井田さんの挨拶と乾杯で始まった会には、80歳でいまだに野球部のコーチをしておら



れる内山邦男さん(高7回)からの書面で寄せられた野球部の現況も紹介されました。アルコールが回るにつれて後期高齢者達も「オレ」「オメエ」の少年期に若返り、ゲーム、練習中の自慢話や失敗談、珍談などに会場は湧いて話は尽きず、アッという間に予定の3時間が過ぎてしまいました。

会場の都合で校歌、部歌の齊唱はできませんでしたが、参会者全員、野球部今夏の健闘、母校の発展に期待、来年の再会を胸に散会となりました。

(高2回 宮川淳二)

『うばたまむし7号』を発刊—生物班OB会誌—



生物班のOB誌編集委員会は、OB会誌『うばたまむし7号』をこのほど発刊しました。

OB誌は2007年、島田知彦さん(高50回)らが「OBの絆に」ということで「実働部隊」を組織して創刊。現役の班誌名「吉丁虫(たまむし)」にちなんで誌名を「うばたまむし」としました。吉丁虫のきらびやかな体色に対し、同形の甲虫ながら、「ややすくすんでいる」という意味合いでいます。

実働部隊は3号まで刊行。2011年に在長のOBを中心とする編集委員会が編集、製作を引き継ぎ、休刊状態に陥っていた「吉丁虫」との合併号—4号を出し、その後、年1回のペースで制作して現在に至っています。

旧制長野中学時代、「博物班」のひとつのセクションだった生物班は、学制改革に伴う再編で分離独立して発足。以来、連綿としてOB・OGを輩出していく、小島治好委員(高12回)が整理を進めている名簿によると登録済みのOBは約600人。未登録者を含めると700人を超えると思われます。

今回刊行した「7号」には、班OBと趣旨に賛同する関係者合わせて50人余が投稿。春以来、天変地異の様相をみせた2014年を反映して、県南を襲った記録的豪雪から始まって、御嶽山噴火の生々しい遭遇記、長野県北部地震などの記録があり、その年々の記録としての役割も果たしつつあります。

7号は、A4版、総ページ数190ページ。旧制長野中学、長野北高、そして長野高校と半世紀以上にわたるOBが参加したユニークな刊行物となっています。

なお、残部がありますので、講読希望者は下記事務局までご連絡ください。会費(年2,000円)を納入された方に配布します。また、次号—8号は年内を目標に刊行しますので、関係者の投稿をお待ちしています。

連絡先

うばたま編集委員会事務局
〒380-0803 長野市三輪6-20-2
牛山 洋(高13回)
TEL 090-5204-9628
FAX 026-237-6614
E-Mail : gwcdb346@ybbs.ne.jp

市民大学事業のご案内

Science Cafe

金鶴会館サイエンスカフェのご案内

今年度のサイエンスカフェは、社会科学・人文科学にも分野を広げて、宇宙・哲学・歴史という多彩なテーマで、OBの皆様を講師にお迎えしてお贈りします。会員の皆様、PTAの皆様、現役生徒、一般市民の皆様、どなたでも参加できます。どうぞお越しください。

◇澤田 弘崇先生(高47回) JAXA勤務 宇宙
10月17日(土) 14時~

◇竹内 整一先生(高17回) 東京大学名誉教授 哲学
10月31日(土) 14時~

◇大日方純夫先生(高21回) 早稲田大学教授 歴史
期日未定



近現代史講座開催

昨年度は、古代史講座・サイエンスカフェに続いて、近現代史講座を1月31日(土)に開催し、講師に高21回の大日方純夫先生(早稲田大学教授)をお迎えしました。「自由民権期の社会～長野から東京へ・東京から長野へ～」と題してお話ををしていただき、参加者は30名ほどでしたが、熱心な聴講者が多く充実した時間を過ごせました。

アンケートより一部紹介します。

◆長野県の青雲の志を持った青年達が、東京専門学校をはじめとする東京の政治文化にふれつつ、志し高く社会に貢献したことを学ぶことができ、とても勉強になりました。また、小野梓を中心とする東京専門学校創立に関わった青年達に焦点をあててお話をいただいたことによって、早稲田大学の歴史を学ぶこともできました。私自身、現在「早稲田大学オープンカレッジ」において、大日方先生の授業を受けており、個人的に何としても今回の講座を拝聴したいと思い、新潟県の津南町から参りました(24回生です)。お話を聞きすることができ、ありがとうございました。



古代史講座

主催：科学研究費補助金(基盤研究(S))「日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充」研究プロジェクト
協力：一般社団法人 長野教育文化振興会
於 金鶴会館大講義室
下記の講座を実施しました。今後の予定につきましては同窓会ホームページ等でお知らせします。

2015年 善光寺御開帳記念講座【続・古典を読む－歴史と文学－】

第1回 4月11日(土)

富山大学 人文学部 歴史文化コース

教授 鈴木 景二先生

「越中立山と善光寺」-仏の道がつなぐ靈場と信仰-

第3回 4月25日(土)

関西大学 文学部 総合人文学科 日本史学専修

教授 西本 昌弘先生

「皇極(齊明)天皇の実像と『善光寺縁起』」

第2回 4月18日(土)

東京大学 史料編纂所 古代史料部門

教授 田島 公先生

「縁起と史実:善光寺の創建の謎を解く」

-十巻本『伊呂波字類抄』『善光寺古縁起』を

如何に読むと史実が見えてくるか-

第4回 5月23日(土)

立命館大学 文学部 人文学科 日本史学専攻

教授 本郷 真紹先生

「善光寺信仰の広がり」-女人救済と善光寺如来-

回期別対抗ゴルフコンペのご案内

期 日 平成27年9月26日(土)

場 所 長野カントリークラブ TEL 026-239-3100

費 用 プレー代 13,000円(食事付き)

※優待券は使えません

参 加 費 3,000円

競技方法 新ペリア方式

☆団体戦:各回期上位3名までの団体合計成績順位

☆個人戦:個人別成績順位

申込方法 はがき又はFAXで同窓会事務局へ各回期3名以上の連記(2組以上も可)でお申し込みください。

締切り日 9月11日(金) *25組で締め切ります

*各組のスタート時刻、その他詳細については9月18日頃、参加者にご連絡いたします。

虫食い算に挑戦!

前回好評につき、数学の問題を一題。今回は小山信二氏(高22回)の寄贈図書『面白い数学問題集』より小山氏のお父様作成の問題です。

以下の計算式は、3けたの整数と2けたの整数のかけ算の計算過程を示したものである。○の中に0から9までの10個の数字のどれかが入る。ただし、どの行も、1番左の○には0は入らない。(答えは1通りしかない)

$$\begin{array}{r} \times \quad \quad 8 \quad \quad \\ \hline \end{array}$$

○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○

正解を持って、事務局に来ていただいた方には記念品を差し上げます。

寄贈図書



歩く道を歩く
週刊長野 2011年7月16日～
2014年11月8日掲載
増田哲氏(高8回)



医療・福祉の総合情報誌
JAPAN MEDICAL SOCIETY
2015年1月号～5月号
野村元久氏(高10回)寄贈



長野高校生物OB会誌
「うばたまむし」7号 2014年
牛山 洋氏(高13回)寄贈



明治という時代
—歴史・人・思潮—
著者 小林敏男氏(高15回)



やまとと言葉で
(日本)を思想する
著者 竹内整一氏(高17回)



信州教育に未来はあるか
著者 山口利幸氏(高17回)



日本歴史 私の最新講義
自由民権期の社会
著者 大日方純夫氏(高21回)



人生のスケッチブック
編者 小山信二氏(高22回)



土屋澄子(高27回) 版画図録
荻原 実氏(高27回)寄贈

てきすいしおくぎんこう
滴翠詩屋吟稿
大窪董齋の詩／付 大窪敏齋の詩



著者 宮崎眞氏(長中40回)
発行者 大久保博章氏(高17回)

長野高校で国語の教員として長く勤められた宮崎眞先生(長中40回)が、このほど松代藩の佐久間象山とも深い親交のあった漢学者大窪董齋の漢詩をまとめ、大久保博章氏(高17回)の助力も得て出版されました。ぜひ多くの皆様にご覧いただきたいということで、1冊4,000円で販売いたします。同窓会へも売上げの半額をご寄付いただけるということですので、ご協力ををお願いします。購入していただける方は、同窓会までご連絡ください。

ご寄付をいただきました。

◆高6回卒業60周年の皆様より40万円 のご寄付をいただきました。

金鶴会館大講義室のクーラーが老朽化しておりましたので、新しいエアコンを購入させていただきました。大講義室は生徒の補習や市民大学事業などで使用しております。大変助かります。

ありがとうございました。



◆長野高校オリジナルビールを作ろう有志の会より、20万2,000円のご寄付をいただきました。

高36回の皆様が卒業30周年、長野高校創立115周年記念ということで企画し、丸本洋酒店(高12回中島隆一郎氏)にて販売してくださいました金鶴缶ビールの売上げより、ご寄付をいただきました。有志の会の皆様、丸本洋酒店様、そしてお買い上げにご協力いただいた同窓生の皆様に厚く御礼申し上げます。

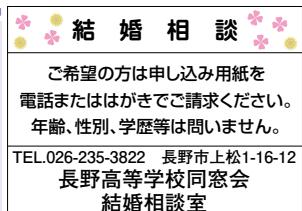


ありがとうございました。

平成27年度同窓会費(2,000円)のご送金をお願い致します。 口座振替の方は6月29日(月)に引き落としとなります。



- 卒業20周年の同窓会(高47回)は8月15日(土) ホテルメトロポリタン長野にて午後5時より開催されます。お問い合わせは事務局まで。
- 卒業45周年の同窓会(高22回)は8月14日(金) ホテルメトロポリタン長野にて午後5時より開催されます。
- 今回、会費と教育基金の2種類の振込用紙が入っております。同窓会ならびに母校発展のため、皆様のご協力をお願いします。



ご希望の方は申し込み用紙を
電話またははがきでご請求ください。
年齢、性別、学歴等は問いません。

TEL.026-235-3822 長野市上松1-16-12
長野高等学校同窓会
結婚相談室